

	測 定 する 能 力
論理的言語力	論理的読解力A
論理的読解力B	論理的読解力B
論理的思考力	論理的思考力
論理的表現力	論理的表現力

日本語を論理的に扱う能力。一文の構造を論理的につかまえたり、「ことばのつながり」、指示語・接続語などを論理的に扱う力。

文章を論理的に読む力。趣旨を的確に把握する力。小説などを客観的に読む力。

文章構造を論理的に解説する力。文と文との論理的関係、段落と段落との論理的関係、文章全体の論理構造を把握する力。

文章の要点を論理的に整理し、まとめる力。論理的に説明する力。おもに記述力・論述力。

他者に向かって、論理的に話す力。論理的に思考し、自分の考えを論理的に書く力。

問題一

論理的言語力

第一問

■解答 (各4点)

- (1) イ (2) オ (3) ア

■解説

(1) 「台風が」↓「縦断した」が主語と述語の関係。「今朝」↓「縦断した」、「大型」↓「台風が」↓「縦断した」、「日本」↓「列島を」↓「縦断した」とつながります。
 (2) 「花が」↓「咲いた」が主語と述語の関係。「美しい」↓「花が」、「白い」↓「花が」、「あの人」↓「心に」↓「咲いた」とつながります。
 (3) 「私は」↓「居眠りしてしまった」が主語と述語の関係。「今日の」↓「国語の」↓「授業中に」↓「居眠りしてしまった」、「ぐっすり」と「居眠りしてしまった」とつながります。

第二問

■解答 (5点)

星

■解説

先生の質問に対して、ジヨバンニが心の中で「あれがみんな星だと、いつか雑誌で読んだ」とあることから、「星」が答え。

第三問

■解答 (5点)

眼

■解説

主語が省略されているので、その直前の文の主語「眼」が答え。

第四問

■解答 (各2点)

- (1) b オ (2) a ア
 (3) f エ (4) e イ

■解説

- (1) 話題の転換
 (2) 理由

- (3) 例示
 (4) 因果

第五問

■解答 (各2点)

- (1) ウ (2) エ (3) カ
 (4) オ (5) イ

■解説

(1) 「情けは人のためならず」は、情けは人のためではなく、いずれはめぐって自分に返ってくるという意味だから、誤用。
 (2) ないているのが、私なのか、鳥なのか、二通りに取れる。
 (3) 「字を間違えて」とするべき。
 (4) 「言いたいのは」↓「するべきだ」と、主語と述語が対応していない。
 (5) 「各」と「こと」が重複表現。

問題二

論理的読解力A

第一問

■解答 (各2点)

- (1) ウ (2) イ (3) オ
 (4) エ (5) ア

■解説

一部紛らわしいものがあるので、確実なものから順次入れていくこと。
 (1) 「陰気」「陰湿」と迷うかもしれないが、(2)は「な会話」と続くので、「陰湿」が答え。よって、(1)は「陰気」。
 (3) 直前の「聴覚と視覚との統一はすぐばらばらになって」から、「錯誤」。
 (4) 直前に「束の間の閃光が私の生命を輝かす」とあることから、「無限」。
 (5) 直前の「理想の光」と反対の言葉なので、「絶望」。

第二問

■解答 (10点)

草むらの緑

■解説

欠落文の「それ」の指示内容を探す。さらに該当箇所直後には「露草の青い花」の説明が来るはずである。「草むらの緑とまぎれやすいその青は不思議な感わしを持っている」が、水音を聞いているうちに「聴覚と視覚との統一はすぐばらばらになってしまう」と似た感情。

第三問

■解答 (各4点)

- ① 日なた ② 寛

■解説

① 影が現れたのは、「日なた」の中。
 ② 「寛」の中からだ、私の理性が信じていたということ。

第四問

■解答 (6点)

二つの表象

■解説

「それら」と複数形になっていることに注意。直前の「理想の光」と「暗黒の(5)」のことであるが、五字以内とあるので、それらをまとめた「二つの表象」が答え。

第五問

■解答 (6点)

エ

■解説

線部は、人生は永遠の退屈であって、生と思つたのは実は幻で、絶望でしかないということ。ア「神秘はすべて幻影」、イ「幻影を抱くしかない」、ウ「生命」ではなく、「生」。「それゆえ」も適切ではない。

問題三

論理的思考力

第一問

■解答 (各4点)

- (1) 感慨を・明日は (2) 念じる・現代に

■解説

(1) 私は望郷の念を抱き始めた。
 (2) 日本の現状に危惧を抱くものは多い。

第二問

■解答 (各3点)

- (1) 降るそうだ (2) 失敗しても

■解説

- (1) 「降りそうだ」の「そうだ」は推測したことなので、「毎年」ではおかしい。そこで、伝聞の「降るそうだ」にかえる。
- (2) 「たとえ〜でも」と呼応関係に着目。

第三問

■解答 (8点)

私は教科書に載っている、夏目漱石の「ころ」を読むのが好きである。

【別解】

私は夏目漱石の、教科書に載っている「ころ」を読むのが好きである。

■解説

「①の文の中に②を加えて」という条件に注意。②を「ころ」を説明する文に変形する。

第四問

■解答 (8点)

私たちはものの一部の側面しか見ていない。

■解説

「つまり」以下が、まとめの文。

第五問

■解答 (10点)

環境保護運動は快適な生活のために、破壊した環境を保護しようとする点において利己的なものである。

■解説

話題は「環境保護運動」。筆者の主張は、「つまり」以下である、その要点となるのは、「環境保護運動は利己主義である」。その理由が「快適な生活のために環境を保護したり破壊したりしている」。

問題1

論理的読解力B

第一問

■解答 (10点)

E ↓ G ↓ D ↓ F ↓ C

■解説

C ↓ Gを並べ変えることに注意。Aには、最近、ニューメディアの発達により、クローズアップ、フェイドアウトという機能に狂いが生じているとあります。Bはそれを受けて、中近東で戦争が起こる例や江戸時代の農民の例を挙げ、今日では自分中心の情報だけでは生きていくのが困難だとしています。そこで、それならいっそう自分のこの機能をコントロールするメタ意識が必要だと述べているのです。ここから、整序問題です。

第二問

■解答 (各2点)

- (a) エ (b) オ (c) ウ
- (d) ア (e) イ

■解説

(a) 私たちは物を認識するときに、自然とクローズアップとフェイドアウトを繰り返していたので、「調整」が答。
(b) 直後の「現代」と対比になっています。現代は自分中心に情報を集めるだけでは生きていけないのだから、江戸時代は自分の狭い周辺の「情報」だけあればいいということ。
(c) 「自然の摂理」という語彙力問題。
(d) 「食物連鎖」という語彙力問題。
(e) 現代は様々な価値観が交錯している時代であることから、「多極化」。選択肢の中で、「化」となるのは、「多極化」「情報化」しかありません。

第三問

■解答 (各2点)

- (1) ウ (2) エ (3) イ
- (4) ウ (5) ア

■解説

「同じ言葉を二回使うこともあります」という条件に注意。
(1) 逆接「ところが」。
(2) 「もはや〜分からなくなってしまう」という副詞。
(3) 例示「たとえば」。
(4) 逆接「ところが」。
(5) 因果(順接)「ですから」。

第四問

■解答 (4点)

善悪不二

■解説

善と悪とは絶対的な区別でなく、視点によつて変わるものだから、善と悪は根本においては同じだという「善悪不二」が答え。

第五問

■解答 (6点)

こうした考

■解説

Hで「クローズアップの発想」とありますが、「食肉を自然の摂理」とする考えは正反對の「フェイドアウト」。「その言葉を含

む一文のはじめの五字」とあることにも注意が必要。

問題2

論理的表現力

第一問

■解答 (8点)

人口が増加から減少に転じている。

■解説

「表1」により、平成十七年までが「人口増加率」がプラス、その後マイナスに転じていることが分かります。

第二問

■解答 (8点)

男女ともに延びている。

■解説

「表2」により、男女とも、平均寿命が延びていることが分かります。

第三問

■解答 (12点)

平均寿命が延びているのに、人口が減少しているのは、生まれてくる子どもの数が減っているからである。

■解説

「表2」から平均寿命が延びていると分かるので、本来人口は増加しているはずなのに、「表1」から人口が減少していると分かります。そこから、「生まれてくる子ども」が少なくなっていると推測できます。

第四問

■解答 (12点)

労働者の減少とともに税収入も減少する一方、高齢者の増加により国家の医療費などが増加する。

■解説

二つの表から、日本は少子高齢化社会を迎えようとしていることが分かります。その結果、何が予想されるか、四つの語句で考えなければなりません。当然「労働者」が減少するので、「税収入」は減少するわけですし、「高齢者」が増えるので、「医療費」が多くなるということが分かります。